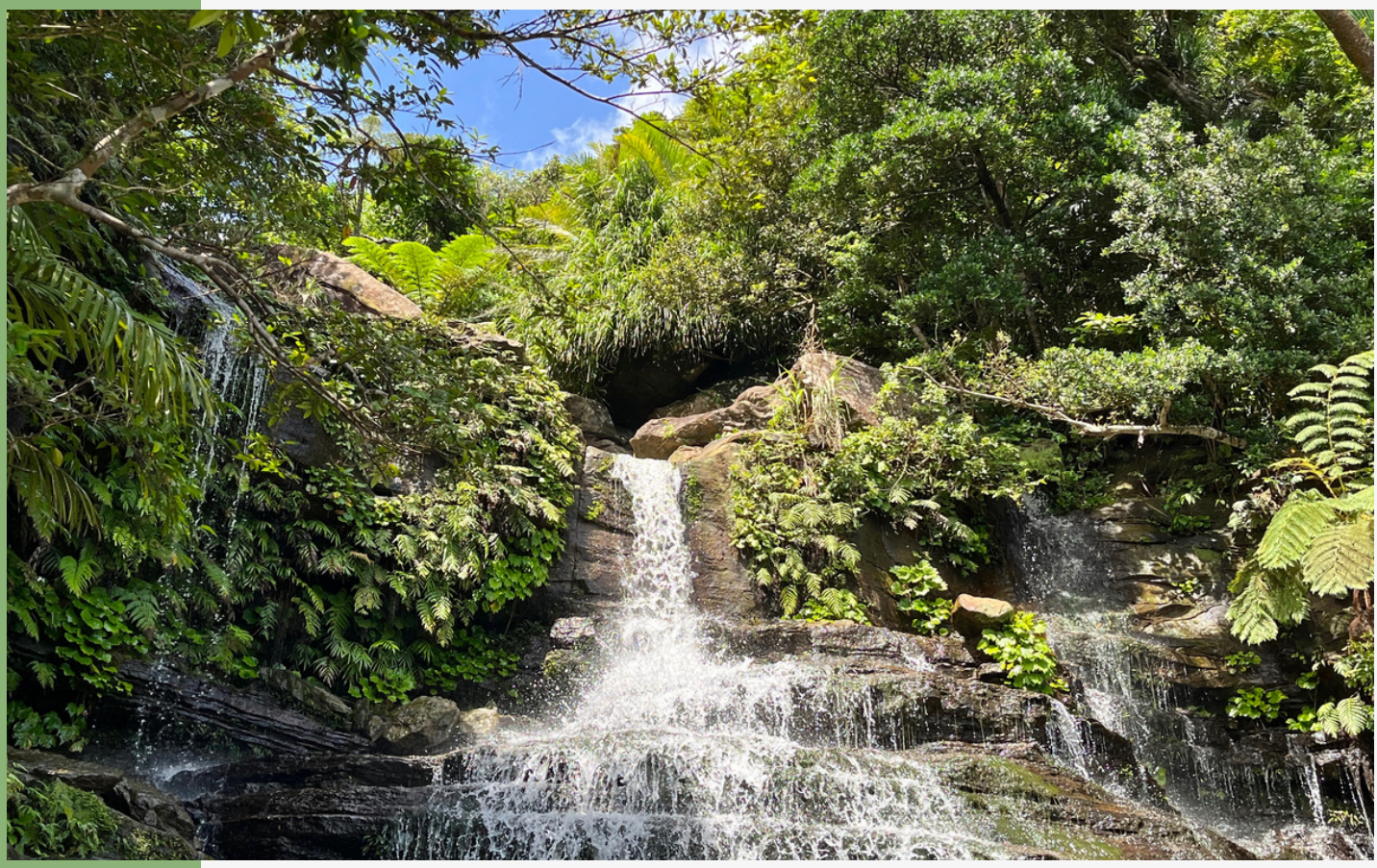
全体を学ぶ学校2022 第２回

～島から学ぶ～
全体性と
繋いでいくことの意味
レポート



特定非営利活動法人アースマンシップ

開催までの経緯

１９９６年に任意団体としてスタートし、２０１４年にNPO法人となったアースマンシップは、２０１９年４月「全体を学ぶ学校」を開校しました。
この学校は、山梨県北杜市武川町の古民家と畑と森を教室として、様々な分野の講師とともに、「すべてのものがつながっている」ことを、知識としてだけではなく、身体も心も自分の全てを使って腑に落としていく場です。
現代社会で多く見られる 物事を細分化し部分を見る生き方では、生きていく上で大切な自分の軸が育たないことを実感し、 一人でも多くの人が

＊しっかりとした自分軸を育て、本当に大切なことを知識としてだけでなく、自分の腑に落とすこと
＊自分のためだけでなく、この地球とそこに生きる全ての命にとってよりよい選択ができるようになること
＊自分自身を知り、認め、受け入れ、自分の命を喜んで生きること

を目指してこの学校を続けています。
アースマンシップは、様々な縁の繋がりで石垣昭子さん、石垣金星さんと出会い、おふたりの全体を網羅した視野とそれを体現している姿、西表島の持つ全体性から学びたいと、数年前から西表島での学校開催の構想を温めてきました。
本当にやるべきことであれば必ず実現するという思いで島に通い準備を進め、全体を学ぶ学校の開校から４年目の２０２２年６月に開催する運びとなりました。

開催日時と場所

２０２２年6月２５日（土）～２９日（水）　西表島　西部地区

講師・スタッフ

【西表島チーム】
手 工 芸：石垣昭子、池田奈々、前津雪絵
歴　　史：石垣金星
自　　然：森本孝房、にしごりなおこ、西野岳史
伝統芸能：星 光、那良伊隼人、池田奈々、上亀智恵、那良伊沁、那良伊陽央

【アースマンシップチーム】
岡田 淳、原 千絵、岡田直子、秋山紀子、大知早恵

協力

紅露工房、NPO西表島エコツーリズム協会、イルンティ・フタデムラ、
古見公子、農家民宿マナ、スーパー八重

授業レポート

今回の参加者とスタッフは東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、愛知県、岐阜県からやってきた20代から70代までの男女。多様性と多層性を大切にする「全体を学ぶ学校」らしいメンバーが色々な場所から集められました。

自然とつながるプログラム
～干立を歩く・wide-angleヴィジョン・ソロタイム

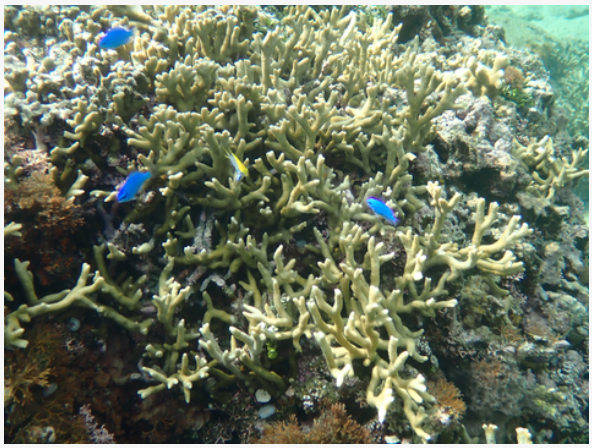
担当：岡田淳

これから5日間過ごす場所とつながるための時間を持ちました。
集落を歩き、一人一人がそれぞれのやり方でその場に心をつないでいく。
そして全体を見るための目の使い方の練習。一点を見つめるのではなく、上下左右全てを視野に入れる。体はリラックス状態、呼吸はゆったりと。全部が見えて、全部が聞こえる状態を体感しました。

海を体感するプログラム
～海という自然についての座学・シュノーケリング

担当：岡田淳

海という自然を知りつながる時間を持ちました。
私たちを大きく包み込み 解きほぐしてくれる海。
海の持つ力を全身で感じるために、必要な知識も受け渡す。
地球上の水の循環、海の生態系、サンゴ礁のこと、海での安全な活動に必要な知識ー潮や流れ、波の動き、注意する生き物ー、そしてシュノーケリングの講習。
知ることと体験することの両方があって初めて、その体験が立体的に生きてくることを実感しました。



水の循環を体感するプログラム
～ゲータの滝トレッキングとビーチクリーン

担当：森本孝房、にしごりなおこ、西野岳史

私たちの命を育んでくれる水の循環を体感しました。
水がどこから来てどこへ行くのか。ゲータの滝から海までを歩くことでその循環を自分の中に取り込んでいく。
その一方で人間の生活によって起きている現実を目の当たりにする。
一人の人間では処理しきれない量の流れついたゴミ。私たちにできることは何か。すべきことは何か。それはゴミを拾うという行為の前にすでにたくさんあるのだろうと自分の生活を省みた日。

西表島と租内の歴史を知るプログラム

担当：石垣金星

金星さんからの申し出によって実現したプログラム。今となってはまさしくかけがえのない時間となりました。
話は多岐にわたり、その場にいたみんなが言葉の一つ一つを必死に心に留め置こうとする。自分のルーツや自分の生まれ育った場所についてここまで語れる人と出会えたことを心からありがたいと思った時間でした。

手仕事を体験するプログラム

担当：石垣昭子

「繋いでいくことの意味」というテーマから、今回は芭蕉の糸作りを中心に体験させていただいた。何も無駄にせず全部を使い切るという先人たちの考え方が衣食住のあらゆるところに生きていることを知る。
そこには無理のない自然の流れがありました。滞りのない流れ。
そしてそこから生まれる 今 目の前にあるものに感謝する心。
現代人の生活から自然の流れが消えてしまった原因はなんだろう…

伝統文化～芸能に触れるプログラム

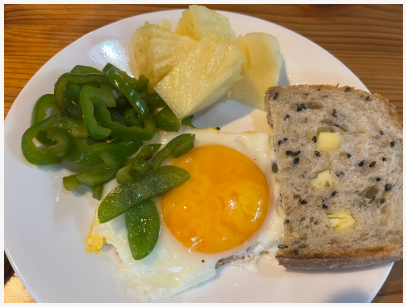
担当：石垣昭子・租内、干立集落のみなさま

地域に受け継がれている伝統文化・芸能に触れる貴重な機会をいただいた。
今回選ばれたのは「仲良田節」「干立くどき」「まるまぼんさん節」の３曲。
仲良田節は６月のシコマヨイ（初穂刈り祝）の日から歌える歌とされています。
また田植えからシコマヨイまでの期間は、稲の発育のためにうるさくしてはならない、三線も弾いてはならない、という決まり事があるとのこと。今回はちょうどシコマヨイが終わって歌や踊りが許される時期だったので、芸能を実際に見せていただく機会を得ました。最後のカチャーシーも最高でした。感謝！

食事作り

担当：古見公子、参加者全員

できる限り地域でその時に採れる食材を使って、みんなで食事作りをしました。
また、１日は地元の料理（八重山そば、おやつ類、新米ジューシー他）を古見公子さんが作ってくださり、島ならではの味を楽しみました。



気づきと学びのシェアリング

　アースマンシップでは、一人で過ごす**ソロタイム**と、自分の思いを外に出す**シェアリング**を大切にしています。**ソロタイム**は一人静かに自然と向き合い、学びや気づきを自分の中に落とし込むための大事な時間です。
シェアリングは、自分の中で起きていること、感情の動き、気づきを言葉にして外に出すことで、新たに自分の中でそれらを確認する時間です。
この２つの時間が学びをさらに深く、濃いものとしてくれます。

ここに掲載するものは、最終日(6/29)のみんなのシェアの録音を書き起こしたものです。そのため完璧な文章になっていない場合がありますことをご了承ください。

幅の広いいろんな体験をしたので、自分の中の全体が広がった感覚はあって、ただそれがどう広がっていったのか、多少わかっているものはあるけど時間がかかる部分かなと思う。部分としての自分は実は今回の学校が始まる前も今も覚悟決意みたいなものは変わらない。直さんも話してたように、自分の持ち場で循環を作り出していく。ワイドアングルビジョンみたいな感じかもしれない。全体を見ているけどあくまで自分の目の前でしっかり。全体を見すぎると絶望しそうな時もある。でも全体を見ていないと部分としての自分の力が発揮できなかったり。自分の持ち場で豊かな循環を作りたい。
昨日の舞で金星さんがいなかったこともある意味よかった。若い世代が前に出る。
担うってことをやらないと繋ぐってことはできないんじゃないか。ちょっと身震いするけど自分も前に出て担わないといけないんじゃないか。おじいおばあがいなくなって、誰がおじいおばあになっていくんだって話。どこの先住民の話にしてもエルダー長老たちは絶滅危惧種みたいになってる。自然に湧いて出てこないから誰かが前に出て担わないといけない。口に出すのも怖いけど挑んでいきたいと思います。今回出会ったおじいおばあがいないのは嫌だな…　金星さんや昭子さんにはなれないけど、自分なりのおじいになっていけたらな。縦の糸も繋いでいきたいし、横のみんな仲間とも繋がっていきたいですね。

◆

まずここの村に入ってきた時に懐かしさがあってほっとするというか、とても居心地のいい時間を過ごせました。私はどうしても写真（カメラ）を通して物を見てしまう。撮ることがいろんなものとの会話になってることを申し訳ないと思いつつ、一期一会という気持ちもあって。来る前は不安もあったけれど、ほんとに海も滝も思い切り楽しめて、感じることができて、やりきりました。
金星さんと昭子さんの顔がすごくて、シワの中に歴史があって、やっぱり写真を撮りたくなったんですけど、表情もすばらしくて。金星さんはもうちょっと怖い方なのかなと思っていたけど開かれていて、全てを受け入れてくれている感じ。淳さん直さんがそういう風にしてくれたんだと思うけど、許されている感じ。
手仕事も最後結局実際に糸をつなぐことは難しかったんですけど、こういうことが続いていくというか。滝に行く時に山があって、水の循環の話も聞いていろんなものが繋がって巡っているんだなと。
そして昨日の夜の踊りがすごく伝承を感じられて、お米に対する気持ちや敬いを感じられてすごくいい時間でした。「繋がる」ということについては、自然とはもしかしたら繋がれているかもしれないと勝手に思っているけど、人と繋がることが私にはとっては難しくて。
昭子さんの話を聞いていて、人と繋がることもできたらいいなと思いました。
これが東京に帰ってどういう風に変化していくのか楽しみにしたいと思います。

元々は水とか水の巡りに興味があるから、そのことに今の時間を使おうと思っていたけれど、今回の全体を学ぶ学校がいいなと思って参加して、結局自然も好きだけど、そこにいる人たちに出会ってあったかいというか、自然ばっかり見てないで人間を見た方が自然ともっと近くなれる気がした。自分も人間だし。
自分はどういうところで生業をするのかなというのが自分の中で気になっているところで、今日の最後にあった仕事は預かりものだという話や、心から願い求めれば必ず道は開けるという話を聞いて、ひとまず自分と周りの人との関係をコツコツ続けながら、周りにある自然とも繋がりながら、生きていきたいなと思います。

◆

金星さんと昭子さんのそのあり方、いつも自分でいる姿。天候だろうが周りがどうであろうと、そのまんまでいらっしゃるというのがすごく響いている。そのままから出てくる言葉がここ（心）に入ってくるという感覚。それに触れられたことがありがたいし、村落の中にコテージがあって、この場自体が外からの人を受け入れてくれる。でも無条件でなく、たぶん淳さん直さんの積み重ねの中で受け入れられていると感じる。本当にラッキーなところにいるんだなと思っている。思い返すとサガリバナもすばらしいし、夜空も。唯一の不安材料だった滝も無事に帰って来れて自分の身体にありがとうだし。サポートしてくれた皆さんとか、こうした方がいいよと教えてくれた人たちのサポートがあったからこそできたこと。
自分の身体の感覚で言ったら、昨日の朝と今朝と起きて海岸に行って水着を着てぷかぷか浮かんで空をみた感覚。チェックインの時にも言ったけど自然が濃い。
まだまだ都会で暮らしてる自分が自然とどうやって結びついているかっていう部分が生活の中では希薄。でもここに来てやっと慣れて素直に受け入れて、抱き止めてくれている、浮かんでいる感覚。
アースマンシップの特徴だと思うけどソロと全体のバランスがいい。部屋でも一人でいたければいることができる。一人でいるとき話しかけられもしない。尊重してくれる。ひとりの時間とみんなでいる時間のバランスが私にとって居心地がいい。私は思ってないけど世代のギャップを感じる人もいるかもしれない。私の後ろに歳はあるけど自分自身としていられた。この体験がどういう風にこれから自分の中の栄養になっていくのか。自分の土壌の栄養になっていくといいな。暮らしをつなぐことに意識を持って丁寧に暮らしていけたらいいな。これからいろんな体験を消化して血となり肉となるといいなと思っています。

◆

この西表の企画を知った時、すぐ行きたいと思って申し込んだけど、いざ行く準備の段階となると仕事のこと、弟、家族のこと、私を止めようとする人とか事があった。
2日くらい前にちょっと無理なのかなという状況があった。でも私の隣にいる人や仕事のことではなく、私個人のことを考えようって。弟の病気のこととか少しずつ自分の気持ちの中で整理をつけていって、そうしたら私行けるなという思いと、行ってもいいという許しみたいなものが間際になって積み重ねられての参加だった。
私もそれほどみんなと知り合いではない中で、初めてお会いする方とか世代年代仕事とか全然関係ない状況で人と触れ合える。自分はすごく人が好きだなと思う時と苦手かもしれないと思う時があって、とても極端な性質を持つ人間かもしれないと思う時がある。
西表島に来て、自分なんてちっちゃくて ちっちゃくてと思える大自然と自然の成り立ちの中で、人々とか植物とか動物が自然に生きているのを目の前で見せていただいたり、海に行ったり、実際体感したその経験から、自分も自然と共に、自然の流れで生きていきたいと実感させていただいた。
貴重なお話からもいろいろ知ることができた。
念願だったこともいくつも叶えた。
諦めていたけれど5日間の間にサガリバナの匂いもかぐことができた。
自分にとっては宝のような5日間。

紅露工房で舞をみられたのが印象的です。昼を経験していた場所だったので、夜に舞の場所へと変わったその変わりようがすごくよくわかってよかった。あの木の間に通して幕を張ったんだとか。昭子さんがあれ（幕）は博物館に行くものだと言っていたけど、ガラスの中で見るよりもすごく貴重でありがたかったし、きっと本来こうやって使うものなんだなというのが目に見えて。裾とか普通に地面についてて、その使い方、大事にしているんだけど神経質じゃない。普通に大事だけどそうやって使っているというのが伝わってきた。
帰る時も本当に真っ暗で（歌舞の時は電気をつけてくれていたから明るかったけれど）、昔からやっている行事だから電気なんかない時からやってるだろうし、真っ暗の中で、外でああいう風に見ることができて、前からそうだったんだとイメージわいた。最後に踊りますよと。とても自然な流れ。沖縄ってこういう感じなんだなと。
自然体のままでやってくれた、見せてもらえたとわかったような気がした。
森本さんや金星さんの話を聞くまで炭鉱の街だったということを全く知らなかった。山が削られていったのがヤマネコが出たからおかげで保護されるようになって。自然遺産になったら保護規制きつくなるから、教育学習のためにこのテナガエビだけは保護から外してもらった。このシダでキュッと取るんだよ。守るだけじゃなくて進まなくちゃいけない。
そのバランスがすごく難しい。立場が違うと守るものも違う。それできっとうまくいかなかったりするけど折り合いつけながら続いていくんだろうな。独りよがりにならない。
大切にしようと思っているものが同じなら歩み寄っていかないといけない。
「共に生きる」が見えた。

◆

ここに来る前から僕自身の中でのここ数年のテーマ「技術」。自分で畑をやって身の回りでも畑に関してもそうだし、いろんな手仕事もそうだし、たくさんの技術がなくなっていくっていう中で、直さんも消費者が大切だっていう話をしてたけど、なくなりそうな消えゆく技術や文化をただ残していけばいいのか。何を考えて僕たちは残していけばいいのか。
人類は何をもって残すと決めていけばいいのか。すごく難しいなと感じていて、今回金星さんや昭子さんの話を聞いたり様子を見ていて、昨日の舞もそうですけど、どういう風に技術が残ってきたかを考えてみた時に、技術は自然と人との関わりの中で形として見えてくる関係性、見えるものとしてあらわれているものなのかな。感受力。外から与えられるエネルギーとかメッセージを受け取る力というのがないと本当の意味で技術っていうのは残っていかない。そういう人たちがいたからこそ祖内の文化も500年続いてきた。
決して惰性では残ってこなかった文化なのかなと思った。
昨日の舞を舞ってくれた子どもたちがすごく楽しそうに踊ってくれていたのがすごく希望。確かに次世代は繋がってるんだなというのを感じて安心というか希望を感じたのと同時に、やっぱり形だけ残そうというのは無理なんだな。人がそこにいて流動的な意志というか、そういうものがないと絶対残っていかないし、残るべき技術としても存在しないだろうな。必然的に消えていくというか、意志が生まれた時に復活するんだろうなと思いました。
今回の学びはたくさんの方や島民の援助があってこそのもの。本当に感謝しています。

◆

印象に残ったのは、滝に行く途中にあったアカギ。赤い木。太い根っこ。
絞め殺しの木が巻きついていても倒れることがめったにない。
そこで思うことがあって、自分は人に寄りかかられたり依存されたりするのがすごく嫌いで過剰なくらい反応してしまうことがある。
でも絞め殺しの木に寄りかかられてても、共に生きていくやり方があるんだなと。
これが自分の中での選択肢になったらいいな。
自分もしっかり根っこをはることができたら。
寄りかかられた時に距離を取ってしまうとか完全に切り離すとかじゃなくて、また別の選択肢もあるんだなと感じられたのが今回の全体を学ぶ学校で学んだことのひとつ。

フェリーを降りた時に感じた光と色の強さと生命力の強さ。本当に強かった。今も強い。
久しぶりに満天の星、ひしゃく星、天の川。魚たちと泳げたり、蛍を見たり、とても懐かしくいい経験ができたなと思いました。
会社が在宅勤務になってしまったので、小さな世界をくるくる生活してした感じがしてた。広い場所に来れてとても良かったと思います。
昨日舞を見せてもらった時や金星さんや昭子さんの話を聞いていてルーツって大事だなと思いました。ルーツを持っている人達のしなやかさ。
自分は東京で生まれ育って500年も続くようなルーツはないのですが、個人の中の大事なルーツの一つとしてアースマンシップがあるなと思う。
繋げていくこと。皆さんとの関係も横の糸なっていくし、全体で織物が織れていけたらいいなと強く思いました。

◆

とにかくすごく濃いいい5日間を過ごせたなと。それはここにある大地もそうだし、植物もそうだし、毎日上がってきてくれる太陽もそうだし、地球も回ってくれるし。
その中でみんなそれぞれにいろんなことを思いながら生きているってことがここまで繋がってきてて、ここに集まった人と一緒に時間を過ごせて、この大人数でおいしくご飯を食べられるってことが本当に幸せで。
社会全体として、実はそこに全部あるのに「ない」ってなっちゃっている違和感をどうしていくか。私の中ではすごく大きなテーマ。言葉にはならないけどこの5日間が本当に貴重で宝物で、あったかくて私の根っこになったなと思うので、これをそのまま長野に持ち帰って改めて土地とももっと深く繋がって生きていこうと思いました。
繋がるってことと自立するってことがうまく噛み合ってなくて、ここに来るまでなんかよくわかってなかった。でもここに来て、いろんな人の話を聞いて感じて、やっぱり一人じゃないって思った。私はいろんなものでできてるし、どうしたって何かに支えられて生きている。ちゃんと感じて理解した上で自分の役割を生きるってことが自立するってことでもあるし、繋がっているっていうことと自立が一緒になって、やっと自分の中で噛み合って繋がって。自分で頑張って生きるんじゃなくて、どう隣と一緒に生きていくかってこと。
さらに深まった感じがして、頭での理解としてのかけら見つけたという感じで嬉しい。

◆

海もあり森もあり現地の人の話をたくさん聞く時間があって非常に濃密で楽しかったです。
私は団体行動が非常に苦手で、これだけの人数で5日間過ごせるかどうか若干不安だった。
森に行った時は勝手にこっそり自由行動していました。でも見られてたみたいで（笑）。
話題になってたって後で知って、やりすぎたかな（笑）こっそり勝手に楽しんでました。
適度に息抜きしつつ楽しめてよかったです。
旅をするのが好きで日本だけでなく世界中。
なんでかって言うと、自分の見たことのないものを見たり、文化を学ぶっていうのがすごく好きだから。それによって自分の引き出しが増える。私の中では引き出しを増やすことが世界と繋がることを意味していて、今回西表について多少理解が深まってまたひとつ引き出しが増えた。実際体験しないとわからないこと、文献を読むだけではわからないことってすごくあって、実際にそこに行って空気を吸って、生きる人の話を聞くことによって理解できることがたくさんあると思っていて、今回ここに来られてよかった。
土地や国が違うと違うこともたくさんあるけど、色々見ていくと根本は共通点がすごくたくさんあって、沖縄とハワイはよく比べられるけど、すごく似ている。何千キロも離れているのに、なぜかそれぞれの原住民がやっていることが共通している。
そういうのが分かってくると世界が繋がっているなというのが理解できる。
私はそういうのを知るのが楽しいから色々行く。
今回そういう体験がまたひとつできてありがたかったです。

私は愛知の田舎出身で、動物や自然が好きで、一人暮らしなのに猫７匹飼ってる。普段から朝毎日ご先祖さまと一緒に自然にお祈りする習慣がある。そういうのが自分にとってすごく大切で、なくなっていくことに心が痛むから「守ること」が仕事になっちゃってる。
1日の中で仕事に使う時間がすごく多くて。特に日本だと。そこが大きくなるとよそ者感がどこに行っても消えない。自分の足元がおぼつかない。だからこそ日常の暮らしを大事にしたい。常にそう思っているつもりだったけど、このところ何かがすごく欠けている感じがしていて、何なんだろうと思っていた。ちょっと前から気づき始めていたんだけど、自分がやっていることの輪っかの中に自分がいなかったのに気づいたのが大きかった。そこがすごくないがしろになっていた。それが分かったのがすごくよかった。
昭子さんのあたたかさや穏やかさはこうありたいと思うそのもの。人としてこんな風になりたいな。昭子さんが自分の世界を広げるというお話をされていて、お金に頼るとかだけではない世界をどう広げていけるかとおっしゃっていた。外のこと、他の何かを守る。自分のためでもあるだろうけど、自分がないと広がらない。繋がっていかないから平面で終わっちゃうと感じたので、自分の在り方を変えたいと思っている。ただ帰って次の日から仕事。残業とかしている間に忘れてしまわないか不安。でもさっきさえさんが直さんの言葉を借りて言っていた「思っているだけでいい」。忘れてたと思う瞬間を作る、気づける自分ではありたいと思う。自分がないもんだから人と向き合ってるつもりでも向き合えてなかったのを感じた。それを感じ始めてたからここに参加したというのもある。私も団体行動や初めての人と会う場所がすごく苦手。その場の雰囲気には合わせられるけど居心地いいというのではない。今までもアースマンシップのプログラムを見ていいなと思ったけどすごい躊躇していた。今回来てみて居心地がいい5日間だったのは、一人でもいられるけど みんなでもいられるあったかい人が多かったからかな。本当に居心地よくて、初めての場所に来てこんなに緊張せずにリラックスして過ごせたのは子どもの時以来じゃないかな。
浜にいる時に頭の中が整理されなくてヤドカリが動いているのが可愛くてぼーっと見ていたら、遠くの小さいものが目に入ってきて、WIDE-ANGLEヴィジョンってこういうことを言ってるのかなと思った。これまでと違う感覚で景色が広がったのが面白い。
ぼーっとする時間ってすごく大事。自分がいかにできてないかを痛感した旅でした。
これを忘れないように、時々思い出せるようにしたい。

◆

元々私は騒ぐのが好きで、アクティビティも好きな人間だったけれど、アースマンシップのプログラムに何回か参加したことで自分の中に変化があったことを今回あらためて実感した。アースマンシップでは自然を感じたり自分の感覚でものを見たりする時間を大切にしていて、静かに自然を見たり感じたりする、そしてそこで感じたことをシェアするということが、今の自分には普通の形になっているんだなと。
うわべだけでない島の自然や姿を見て欲しいと願う内の人と、うわべだけを求めてくる外の人。うわべだけを求める外の人が多すぎて、うわべを紹介すればいいと思う内の人と、島の自然と一体になりたいと思ってやってくる外の人。島の外の人にも中の人にも、その両方がいることをあらためて確認できた。
それと、金星さんが浜で「海に入らないの？」って何度も言って。「行ってこい！」ってことだなと思った。この海の良さを感じてよ、っていう感覚じゃないかと勝手に思った。話で聞くより五感で感じて触って！って。みんなで海に入ってそれを感じられてよかった。

◆

肺をすごい使って、肺を運動させた感じがして、これめっちゃいいんじゃないかって思ったりしました。教えてもらった「全体を」っていうことをすごくいっぱい思って、夜の星空をー東京だと見えないからーすごいいっぱい星を見たら、全体って宇宙まで行ってる！とかすごい思って、その全部の中に「来なさい」って言われてる感じで、それを、空気とか水とかをここ（心/肺）に持ったまま、洗ったという感じがしていて、元気よく帰ります。

すごい充実した5日間だなと思ってて、一番印象に残ってるのは金星さんのいでたち在り方。
そこにいることが自然すぎて、当たり前すぎて、ちょっと意識を外すと見失っちゃうんじゃないかと思うくらい。見えなくなっちゃうんじゃないかと思うくらいの感じを受けた。ヤドカリとちょっと似てるな（笑）。意識するとあっちもこっちも見えるけど、意識しないと一匹も見えない。環境に同化してる。金星さんもその場所に同化して見えたし感じられた。
西表島でできた食べ物だったり、土とか水とか空気が金星さんの身体や生活を通ってまた西表島に帰っていく。金星さん自身が西表島の一部になってるからなんだろうな。
生きていること自体が繋ぐことになっているんだろうな。
海でWIDE-ANGLEヴィジョンしていて、目を瞑ってだんだん波の音が近づいてきて、本当はもっと向こうなのに波がこの辺まできて、もう少しで手が届きそうな感じがした。
金星さんは自身が波になっている。それすらも一体になっている。
自分の日々の生活を振り返った時に何が自分の身体や生活を通ってそれがどこに行っているんだろう。まだまだ意識できていないことばっかりだなというのを感じた。
日々の生活の中でお金のこともあるし、仕事とプライベートとある中で全部一気に変えるのは難しいけれど、１％ずつくらいでもいいので、食べること着ること住むことを変えていけるといいな。金星さんの在り方や話を通して、どう生きるかという問いをかけられた時に、結構何の仕事をするのか、どう働くのかと自動で変換されちゃうけれど、生きることって働くことだけでなく、食べること着ること住むこと全部そうなはずと実感。
今日は日付変わるころ帰るけど明日からの生活が楽しみです。

◆

今回の全体を学ぶ学校には勇んでワクワクして申し込んだんですけど、近づいてくると、自分の中でものを感じることができなくなってきているように思ってしまって。あるいはそれを表現することがとても怖くなっていた。どうなるんだろうと自分で解決されないままやって来た。旅に出るのが怖くて、西表島でみんなとやれるのかなぁというのが正直な気持ちだった。それは解決しましたとかではないんだけど、安心できる場が自分の中で欠けている。実際に欠けているのか欠けていると思い込んでしまっているのか。
いろんな条件が重なって非常に心が窮屈になっていました。
でもここに来たら、みんながもうとっても親切というか、心の暖かさで満ち溢れていて。どの棟もそうだったと思うけど、我が棟は和やかで。みんなに助けられて。若い二人が優しくて。アースマンシップっていうのはそういう場を提供してくださるってことを信じてはいたけど、やっぱり本当にそうだったんだなぁ、来てよかったなぁって思った。
今回心に残っていることの一つは、淳さんが「気配を消す」という話をしてくださったこと。話の意味は自然界にあっては、また危機にあっては気配を消して身を守り直感を働かせることが大切だという事だったと思う。私は「自己の意識を尖らせていては周りになじめず目立ってしまう」というところも心に残った。自己の意識を尖らせるのが現代的生き方なのではないか。でもそうすると回りが見えなくなり、自分自身もその意識に征服されてしまう。自己意識を尖らせず対象と一体となり、しかし流されるのではなく自分の直感を信じて全体を見る在り方。そう思うと自分が楽になる。
今回のハイライトの金星さんのお話と昭子さんの工房での芭蕉糸作りは貴重な体験だった。島を知りずっと生きてきたのは我々だ！と語気強く語った金星さんの姿を見て、伝えるものを持っている人はすごいと思い励まされた。
昭子さんはそれぞれが自分の出来る事を精一杯やりなさいと仰っていた
さっきのグループのシェアでもいろんなキーワードが出たけれど、私たちはお借りしているっていう気持ちが大事だよね。与えられている命とかも含めて、お借りしているという風に思いあえればとてもいいな。自然との関係にしても、人間との関係にしても。
それぞれが色んな背景をもって集まり５日間でつかんだものは大きかったのだと感じた。
皆誠実に生と向き合っている。つながりが出来たことに感謝している。

原千絵／一番印象に残ったのは金星さんのお話でした。自分たちのルーツ等を昨日の事の様に話しておられたのに驚きました。自分がどうして今ここに存在しているのかをしっかり分かっていて役割を全うしている様に思えました。伝統工芸に携わっていると守らなきゃという考えで閉鎖的な方が多いと感じるのですが、金星さんは（行事なんかを）今の時代に合わせてできるように続けたらいいと言われて、楽しみながら大事な所はしっかりと守っておられるのがよく分かりました。
昭子さんの前向きで全く立ち止まらない感じも刺激を受けました。私の東京の先生は昭子さんと同じ年代ですが、もう作品はできないと言われます。昭子さんはそれと正反対で、生き生きと来年の展示会や制作の話をされて、思わず「私もやりたい！」と言ってしまいました。
私は今、復元、修復のための白生地の仕事を始める所です。これはまさしく点と線の仕事かなと思っています。全く同じ物はできませんが、今現在でできる最善のやり方や材料で何十年後の人達に恥ずかしくない様な仕事をしようと糸屋さんと話しています。

◆

大知早恵／一番思ったのが特別なことが特別じゃない、特別じゃないことも特別である。うまく言えないけど、そういう生活を見せていただいたなと思う。さっき光くんも言ったけど、生活とか文化とか自然を分けて捉えがち。生活をどうするかとか、文化というものも一つのカテゴリーとして身体から離して捉えてしまいがち。でも実は離れているものではなくて、比べるものでもなくて、全部繋がっている。二次元的なものよりも立体的なもので繋がっている。どこで切っていいかわからない。生活の中に文化もあるし自然もあるし哲学もあるし。そんな全体を捉えられた感じがします。

◆

岡田淳／西表島に初めて言った時はこちらを振り向きもしなかった金星さんが、通っているうちに少しずつ話を聞いてくれるようになって、そのうちに自分の話をし始めて、最後には、自分からこの学校で話をしたいと言ってくれた。そのことがとてもうれしかった。
大事なのは、自分の感覚で物事を感じとる。直感的に感じとる。その後で必要だったら調べる。他人から教えてもらうことをただ受け取る、鵜呑みにするのではなくて自分の感覚を信じる。すべてはそこから動き出すので、ぜひその気持ちで生きていってもらえたらと思います。

◆

秋山紀子／海では陸で生きていると想像もつかないような海の生き物たちの世界が繰り広げられていたし、森では植物や動物たちがその場の環境に適応した生き方で生き延びていた。それを自分の目や身体で体験したことで、普段いかに小さい想像力の中でイメージしていたかに気づかされた。金星さん昭子さんの在り方やまとう空気を身体で感じることができ、人間という自然の広がりは思っていたよりもずっと大きいと感じると同時に、力強さと弱さ、はかなさと代々繋がれていく永続性など、相反するとみえるようなことが同時に存在しうるのだと実感できたことが、これからの私の生き方に大きく影響する予感がしています。

◆

岡田直子／全体を学ぶ というのは茫漠としていて言葉で説明するのは難しいのだけれど、近視眼的にものを見て動くんじゃなくて、いろんな命のつながりを感じながら自分の与えられた命を生き切るために必要なことだと思う。できるできないで優劣は決められない。
人は自分が頑張って仕事や地位を獲得したと思っているかもしれないけれど、実は仕事は天からの預かり物で、自分が生きている何十年かの間 天から預けてもらっているもの。
だからそれを預けてもらえるのなら精一杯やろうと思う。
全体を見られるようになりたいとか、謙虚になりたいとか思うけど、実際にそうなれるかどうかはあまり問題ではなくて、そうなりたいと強く願い求める心が、自分を自分らしく生かしてくれるんだなって思う。
未来につながる１本の「線」を作るかけがえのない「点」である自分。その「今」を大切にすることができたら、自ずと行くべき方向に進んでいけるのだろうと思う。

西表島での学校が終わって２ヶ月以上経つというのにまだ消化中で、その理由のひとつは、金星さんが私たちに島のいろいろを話してくださった３日後に急逝されたということがあるのだけれど、おそらくそれがなくても、島での学びは「はい、分かりました。はい終了」とはならなかっただろうと思う。
それは「全体を学ぶ」ということ自体が区切りのないもので、とても広く深い領域の学びだからではあるけれど、それに加えて今回は、学び場となった西表島の持つ全体性が本物で、そこに暮らす人々が理屈でなく全体をまとっておられたことがさらに学びを深いところへ導いてくれたと思う。
今回「繋ぐ」をテーマにあげさせていただいたが、私はこのテーマと向き合うことで「今」の大切さを改めて教えられた。先も含めた全体を視野に入れた上での「今」の大切さ。私はどれだけ「今」を生きているか。大きな問いと希望をいただいた。この希望を胸に、アースマンシップの学びは続きます。
この学校の実現のために協力してくださった西表島のみなさまに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

全体を学ぶ学校 企画コーディネーター　岡田直子

www.earthmanship.com
180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町4-16-4
特定非営利活動法人アースマンシップ